

上越新幹線車両脱線現場

調査日：平成16年11月7日（日）

班：構造物マネジメント班

分類別：被災状況、復旧・復興状況

キーワード別：新幹線

調査結果

目視調査の範囲では、軌道面の構造上のゆがみや変形は見られなかった。高架橋の継ぎ目も、今回の地震で新たに生じたと思われる段差や開きは特定されなかった。

電柱基部は電柱周りに砂を詰めた緩衝構造としており、この緩衝構造は今回の地震でも有効に機能し、電柱はわずかに傾斜したものの甚大な損傷は免れた（写真3）。



写真1 レールの損傷状況



写真2 脱線した「とき325号」



写真3 電柱基部の緩衝装置